

19世紀末、スペインの植民地支配は

崩壊し始める。

フィリピンでも独立の気運が

高まりつつあった。

ホセ・リサールは、

科学、芸術、語学に秀でた天才作家。

彼はスペイン最大の政敵であった。

独立の英雄がたどる、短くも激烈な人生を

壮大なスケールに描いた記念碑的大作!

フィリピン映画の本格的日本初公開。

この名前を、わたしたちは永遠に忘れない。

# ホセ・リサール

フィリピン独立100周年記念作品  
マリルー・ディアス=アバヤ監督作品

## JOSÉ RIZAL

セサル・モンタノ  
ハイメ・フアブレガス  
ジョエル・トーレ  
ガルド・ヴェルソザ  
クロリア・ディアス  
モニーク・ウィルソン

監督:マリルー・ディアス=アバヤ  
脚本:リッキー・リー/ジュン・ラナ  
ヒュー・オンタリム  
撮影監督:ロディー・ラックヤブ  
美術:レオ・アバヤ  
衣装:マイク・グウイソン  
編集:ヘス・ナヴァロ/マネ・デイリ  
音楽:ノノ・ベンカミン  
製作:フッチ・ヒメネス  
ジミー・タウイット

マリルー・ディアス=アバヤ  
製作総指揮:マルド・P・ヒメネス  
キルベルト・M・タウイット  
フェリペ・L・ゴンザレス  
フィリピン/GMAフィルム  
1998年/カラー/178分  
配給:岩波ホール  
A Production of GMA Network Films

design: image project





フィリピン独立100周年記念作品★マリルー・ディアス＝アバヤ監督作品

# ホセ・リサル JOSÉ RIZAL

セサル・モンタノ、ハイメ・ファブレガス/監督:マリルー・ディアス＝アバヤ/脚本:リッキー・リー、ジュン・ラナ、ピーター・オング・リム/撮影監督:ロディー・ラックヤブ  
フィリピン/GMAフィルム/1998年/カラー/178分/フィリピン語/ウィスタビジョン/ドルビーSR/配給:岩波ホール/A Production of GMA Network Films

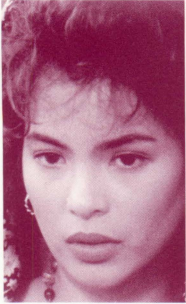
## フィリピン映画史上最大のヒット作!

映画「ホセ・リサル」は、フィリピン独立運動の理論的指導者であったホセ・リサル(1861-1896)の短くも劇的な生涯を描いた歴史大作である。この作品は1998年の独立100周年を記念して企画され、監督には名実ともにフィリピンを代表するマリルー・ディアス＝アバヤが選ばれた。国内では人々の熱烈な支持を受け、このアジアの映画大国において、観客動員、興行収入などで、これまでの記録を塗りかえる大ヒットとなった。

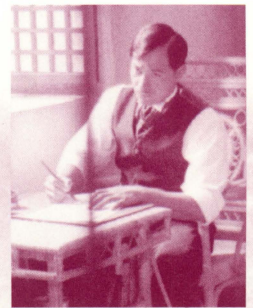
## 植民地からの独立を導いた作家ホセ・リサル。

ホセ・リサルは、19世紀末、フィリピンの民族意識を高め、やがてスペインの植民地からの独立運動を推進させた2冊の小説「我に触れるな」(1887)、「反逆」(1891)を書いたことで知られる。スペイン聖職者や、当局の不正義を告発したりリサルは、やがて権力者の憎しみをかい、国家反逆の罪を着せられて、35歳にして処刑された。

ホセ・リサルは、22カ国語に通じ、文学だけでなく、美術、医学、博物学、言語学など、多方面で才能を発揮した天才だった。マホマ・ガンジーと同じく非暴力主義を貫き、「人種間の平等」「男女間の平等」「教育の価値」「人間の大切さ」など、現代においても価値のある多くの理念を持つ思想家であった。アバヤ監督は、この性格化された人物の作品化にあたり、リサルの小説作品を紹介しながら、単なる偉人伝とはせずに、民衆や家族を思い、恋に悩み、魂を込めて芸術に打



ちむ二人の人間の物語として描いている。家族のあたたかい愛情につつまれて育った少年時代、監禁されたりリサルと弁護人タビエルとの交流、人生に疑問を抱き、自らの思想を見つめ、悩みながらも信念を貫いていくリサルの等身大の姿は、見ている者の心を強く揺り動かす。アバヤ監督は、「ホセ・リサルが始めた革命の戦いは未完に終わりましたが、彼がそのために生き、死んでいった理想を、私たちは継承し、完結しなければなりません」と語り、ホセ・リサルの思想の新しいさを語る。この作品は、フィリピン国内において、リサルの再評価の動きを生み、彼の思想が今あらためて検証されている。



でもある彼女は、1980年の初監督作品「鎖」以来、精力的に製作を続け、1994年以降にはほぼ毎年新作を発表している。レイプの問題を扱った「貴女のためにたたかう」(1995)、貧困のため国外で働く母親の物語「マドンナ・アンド・チャイルド」(1996)など、社会的なテーマを女性の視点で描いた作品で知られる。日本でも、福岡アジア・フォーカス、東京国際女性映画週間を通して、最も知名度の高いアジアの女性監督の一人である。また、2001年9月には、これまでの貫いた製作姿勢が評価されて、福岡アジア文化賞(福岡市主催)の芸術・文化賞を受賞した。

主人公ホセ・リサルを演じたセサル・モンタノは、聡明で人間性豊かなホセ・リサル像を自然に演じることが出来る希有な俳優である。この作品でフィリピンの大スターの地位を確立し、アバヤ監督の次回作「ムロアミ(原題)」(2000)では、スキンヘッドの荒々しい漁師を演じて、幅広い才能を観客に印象づけた。

なお「ホセ・リサル」はフィリピン映画の本格的な日本初公開作品であり、日本にとって大変関心の深い国、フィリピンを知るうえでも見逃せない作品である。

7月13日(土)より、感動のロードショー!

上映終了日は劇場にお問合せください

連日 12:30 3:50 7:10 各回入替制

特別前売鑑賞券 1500円(当日一般1800円)好評発売中!

劇場窓口、チケットぴあ、ローソンチケット、各主要プレイガイドにて発売中

梅田スカイビル(空中庭園)タワーイースト4F

梅田ガーデンシネマ

06-6440-5977

www.cineplex.co.jp

●毎土・日・水・および祝日は混雑状況にかかわらず入場整理券を発行いたします。

